

視点・論点・ところてん

教職員としての多忙化を考える③

私は校長の間、働きやすい職場にするために以下のように具体化した。(思いつくまま)先生方には当該校長の決裁権であるから他言しないようにと伝えた。

1. 原風景は父母の教職員時代

和歌山の片田舎で勤務していた母親は中学校の教員だった。当時女性は母以外いなくて、幼い私が病気しても休みにくく、女性教師亡国論者の管理職にいじめられたようだ。父はそんな妻の生きづらさを胸に刻み、自身が校長になった時に女性も含めてみんなが働きやすい職場にしようとした。

2. そして、渡瀬は「遅く出勤される先生は、早く帰ってください」から始めた

これが、先生方に言った勤務に関する象徴的な言葉だ。多くを語る必要はないと思うが、勤務時刻ぎりぎりに出勤するには理由がある。そんな先生方が退勤するとき、堂々と帰れるようにこの言葉を使った。1時間以内であれば1時間休願いに提出不要の意味の斜

線を引いて返した。

3. 遅くまで仕事をするのが善ではない

夜遅くまで仕事をする先生が発する言葉「もう帰るん？」には個別指導した。

「あなたが遅くまで仕事をするをじゃまはしませんが、退勤時刻を過ぎたら、その言葉は絶対に言わないでください。帰りづらいでしょう」さらに、職員会議は必ず時間内に終わる。長引きそうになるときは「時間です」と伝えた。

4. 振替時間の保障

生活指導などで通学路に朝、30分立った場合は、どこかで必ず1時間早く帰っていただく。運動会当日なども朝早いので同様の措置をした。

5. 長期休業中などには、全員に「宅研願い」を配付し提出書類は簡単にした

教育公務員特例法に明記されているにも

かかわらず剥奪されそうになっている実態がある。そこで「学期中は子どもたちのために働き、お疲れだと思います。せめて子どもの来ない休みくらい充電してください。みなさんが行使することが、後に続く先生方のためにも、また、働きやすい職場にもつながるのです。ゆっくり休んで、しっかり研修してきてください」と伝えた。

そして、民間教育団体への参加にも旅費を出すようにした。

6. 長期休業中などは出勤は出勤印で確認する

一日どこかで出勤し押印すれば可とした。すると年度末、事務職員の方から「保護者から「担任の所在を聞かれる電話があるとき困るからせめて、午前午後の二回に分けてほしい」と要望があった。ところが、誰も反対しない。そこで私は「重要な電話なら、担任からかけ直します、と言って担任に電話すれば

事足りないですか。そのための職員連絡網じゃないの」と言ったが、原案通りになってしまった。そこで、「11時59分に出勤して12時1分に退勤すればいいよ。これで2つ押印できる」と伝えた。

7. しんどい子どもは校長室で

少し論点がずれるが、荒れる子どもを少人数指導のように別室指導した。担任の気持ちに安らぎと子どもたちをクールダウンさせるためである。

これらのことは校長会での情報交換でも話をした。すると賛同してくれる校長も何人かいた。管理職が働きやすい職場にすることで、先生方は学校が困ったときには総出で助けくれ、スクラムができ風通しのよい楽しい職場になっていく。先生たちが仲がよいと、相乗効果で子どもたちは落ち着いていくのである。

岸和田市教育相談室 渡瀬 克美

<編集部から>

「渡瀬さんのような校長と出会いたいと思いました。校長は教職員を守ってくれる存在であって欲しいと常に思っています。こういう細かいところにこそ、教員を守るべきかどうかの姿勢が表れると思います」とのコメントは編集部のTさん。自分たちの取り組みと管理職の運営の調和こそ、多忙化や働きづらさに立ち向かう最大の武器と感じました。はじめの一步は教員の「意欲減退」を防ぐことです。「上意下達だけの命令的な職場」「自宅研修を取ろうとしたら過大なレポートを提出しなければならない」「出張が認められない」etc. おかしいと思うことを「おかしい」と言える職場環境と聞いてくれる管理職のコラボが必要です。

